

松本市の国保税「高い！引き下げてください！」 民医連友の会員訪問で国保署名25筆、25条署名20筆



中信民医連では、12月22日中堅職員を対象にした社会保障講座を開催。午前中、全日本民医連のパンフ「あれ？おかしい。気づきからはじまる、わたしのシャホ」や長野県民医連のパンフ「知ることは始める医療と介護の一体改革」を教材とした研修会を実施。午後は、参加者全員（30名）がグループに分かれ、松本市入山辺地域在住の患者宅・友の会員宅の訪問活動を実施しました。

訪問したお宅（左写真）では、日頃感じている病院への「思い」をお聞きしながら、国保署名と25条署名の協力や友の会への入会のお誘いを行いました。

その中で「病院に雇るのが大変」「松本市の国保税は高い！引き下げてください」などの要望が聞かれました。当日の訪問活動で国保署名が25筆、25条署名が20筆集まりました。

国保署名運動期間あと1カ月、目標達成めざし短期集中を！

国保署名の運動期間は1月末までです。年末年始と忙しい中ですが、2万筆の目標達成めざし、各加盟団体の精力的な取り組みをお願いします。また、各団体のとりくみで集まっている署名は事務局に届けてください。

生保制度の改善、子ども医療費の拡充、障がい者（児） 施策の拡充要望で、12/22 松本市の担当課と懇談

松本地区社保協は、12月22日（金）事前提出していた「国保、介護、福祉等の制度改善や障がい児・者の支援等に関する要望」に対する追加の回答（12/4）にもとづき担当課と懇談しました。

今回は、前回実施（11/16）の国保と介護の改善要望に続き、二回目の懇談でした。懇談内容は、「生活保護制度の改善」「子ども医療費助成等の拡充」「障がい者（児）施策の拡充」に関する要望内容でした。松本市側からは、生活保護課、障害福祉課、子ども福祉課、学校教育課、学校指導課などの課長・係長等10数名が参加。社保協側は、久保田会長以下16名の役員、当事者等が参加しました。



生保制度の改善要望の中で、生保受給者本人の訴え「私の扶養義務者調査の中で、70年間音信がなかった義理の姉妹の調査が本人の同意がなく行われ、心外です」との発言を受け、「本人への同意や通告もない中での実施は、大問題」「人権侵害ではないか」などやり取りがありました。担当課長は「実施要領」もとづいて実施したと答弁。こうした対応に参加者は憤慨し、改善を要望しました。

子ども医療費助成の拡充要望では、「回答にあるような県の内容に準じた範囲の対応ではなく、かつての実施策のように、全県の先進になるような拡充策を実施してほしい」と要望。担当課長は、今回の実施内容は、県の動向や他市の実施状況を踏まえながらの「当面」の措置と考えていると発言。

障がい者（児）施策の要望では、県推協副代表の原金二氏が「障害者権利条約」等に関する市長への要請書を手渡し、回答項目に沿って要望しました。障がい者医療費窓口無料化問題では、担当課長は、「全県的な対応が必要で市長会として県に要望した」と発言。また、医療的ケアが必要な重度障がい児の支援をしている「ちごちごの会」の当事者、支援者から毎日苦勞している状況等についての訴えがあり、支援策の充実を訴えました。担当課長からは、「各関係事業者への働きかけや広域的な対応」などの答弁あり、参加者からは「市としての主体的なとりくみを」と強く要望しました。